

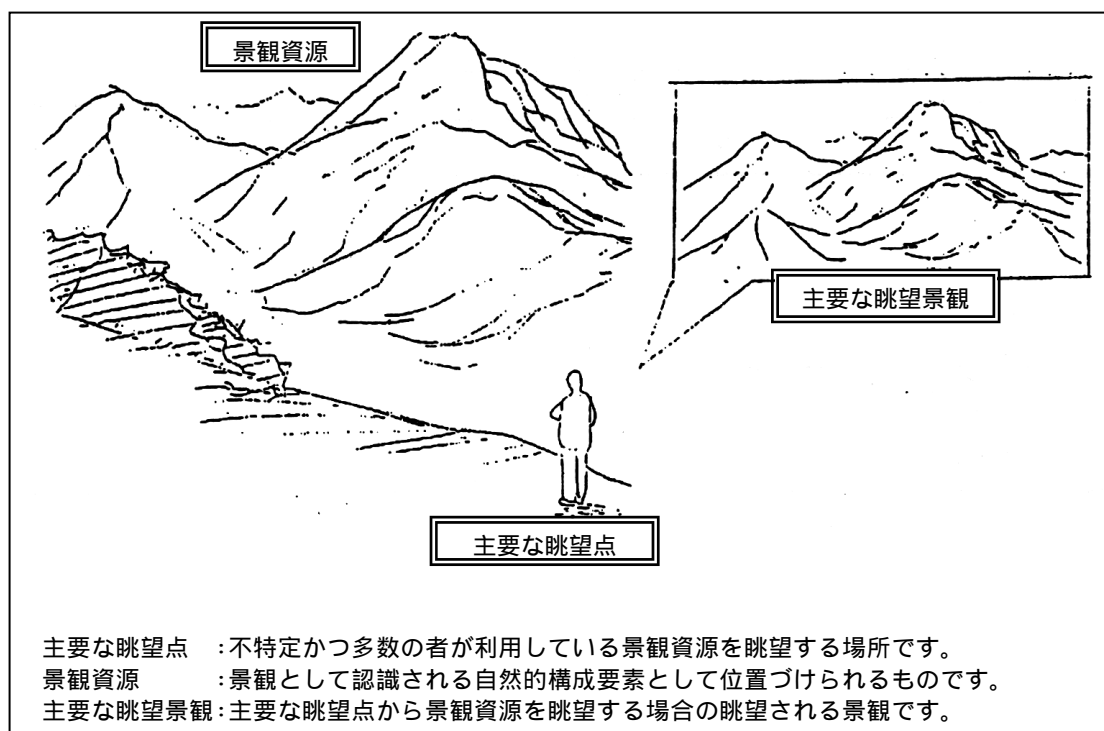
### 3.4.2 景観

#### 1) 項目及び検討手法

ここでは、嘉瀬川ダム建設事業による景観に対する影響の検討をどのように行うのかについて説明します。なお、景観として、主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観について検討します。

主要な眺望点及び景観資源の変化については、ダムの堤体等の存在及び供用と主要な眺望点及び景観資源の状況を踏まえ、主要な眺望点及び景観資源の改変の程度について、主要な眺望点及び景観資源の分布と事業計画を重ね合わせることで、検討します。

主要な眺望景観の変化については、フォトモンタージュにより、眺望景観の変化及び影響要因の視角の程度を検討します。



資料: 「ダム事業における環境影響評価の考え方」(河川事業環境影響評価研究会 平成 12 年 3 月)  
をもとに作成

図 3.4.2-1 景観の定義

#### (1) 影響検討の考え方

影響検討では、はじめにどのような視点で影響を検討すべきかを明確にした上で、調査、予測を進めることが重要です。

景観に対する影響検討の考え方の流れを図 3.4.2-2 に示します。

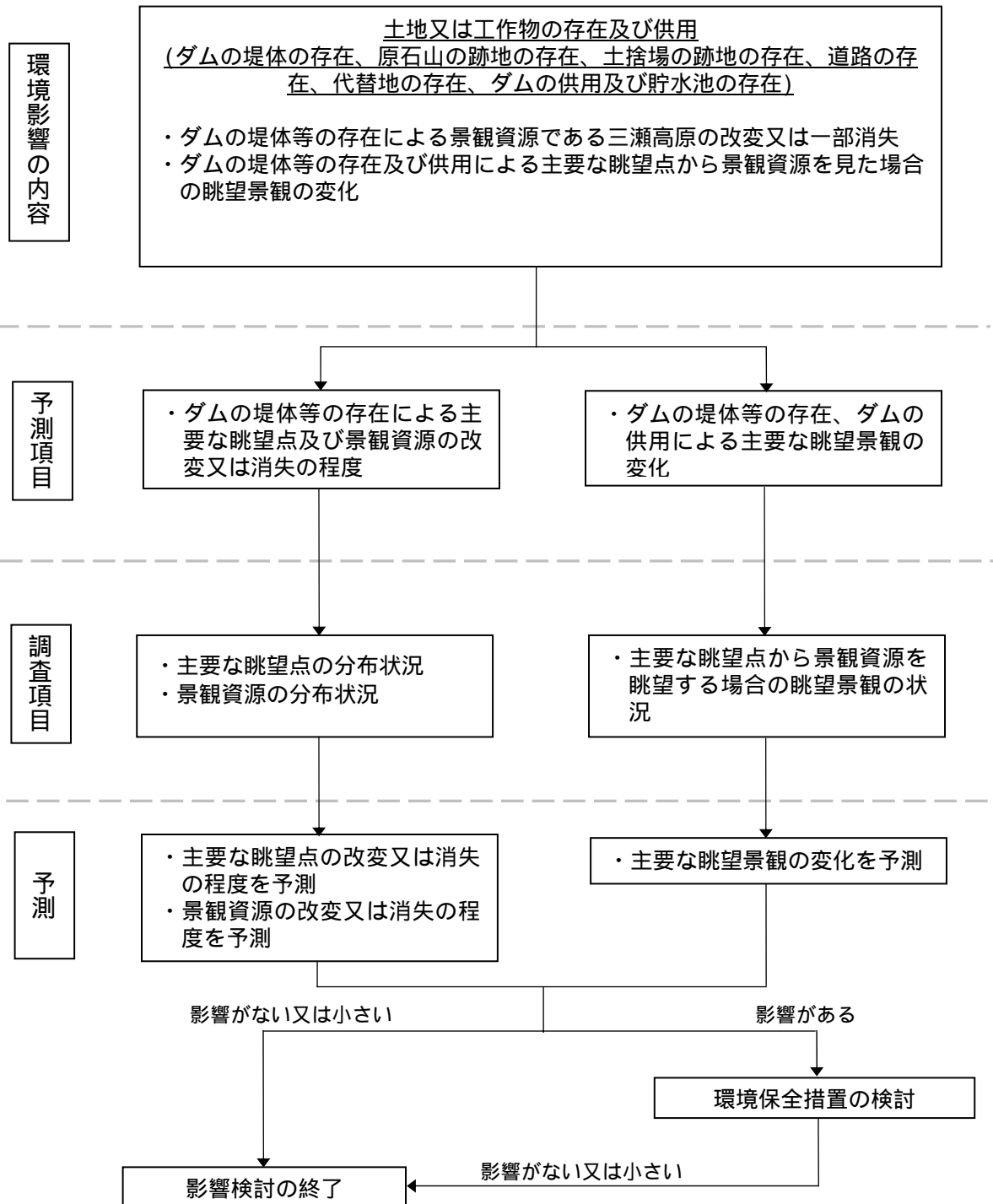


図 3.4.2-2 景観の影響検討の考え方

(2) ダム事業による景観への影響の想定

景観に関する影響検討において、対象とする影響要因と環境影響の内容を表 3.4.2-1 に示します。

表 3.4.2-1 予測対象とする影響要因

影響要因		環境影響の内容
土地又は 供用 作物の 存在及び	ダムの堤体の存在 原石山の跡地の存在 土捨場の跡地の存在 道路の存在 代替地の存在 ダムの供用及び貯水池の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの堤体等の存在により、景観資源である三瀬高原が改変又は一部消失し、景観資源に影響を及ぼすおそれがあると考えられます。</li> <li>・ダムの堤体等の存在及び供用により、主要な眺望点から景観資源を見た場合の眺望景観が変化し、主要な眺望景観に影響を及ぼすおそれがあると考えられます。</li> </ul>

(3) 予測手法

影響の内容を把握するための予測項目及び予測手法を表 3.4.2-2 に示します。

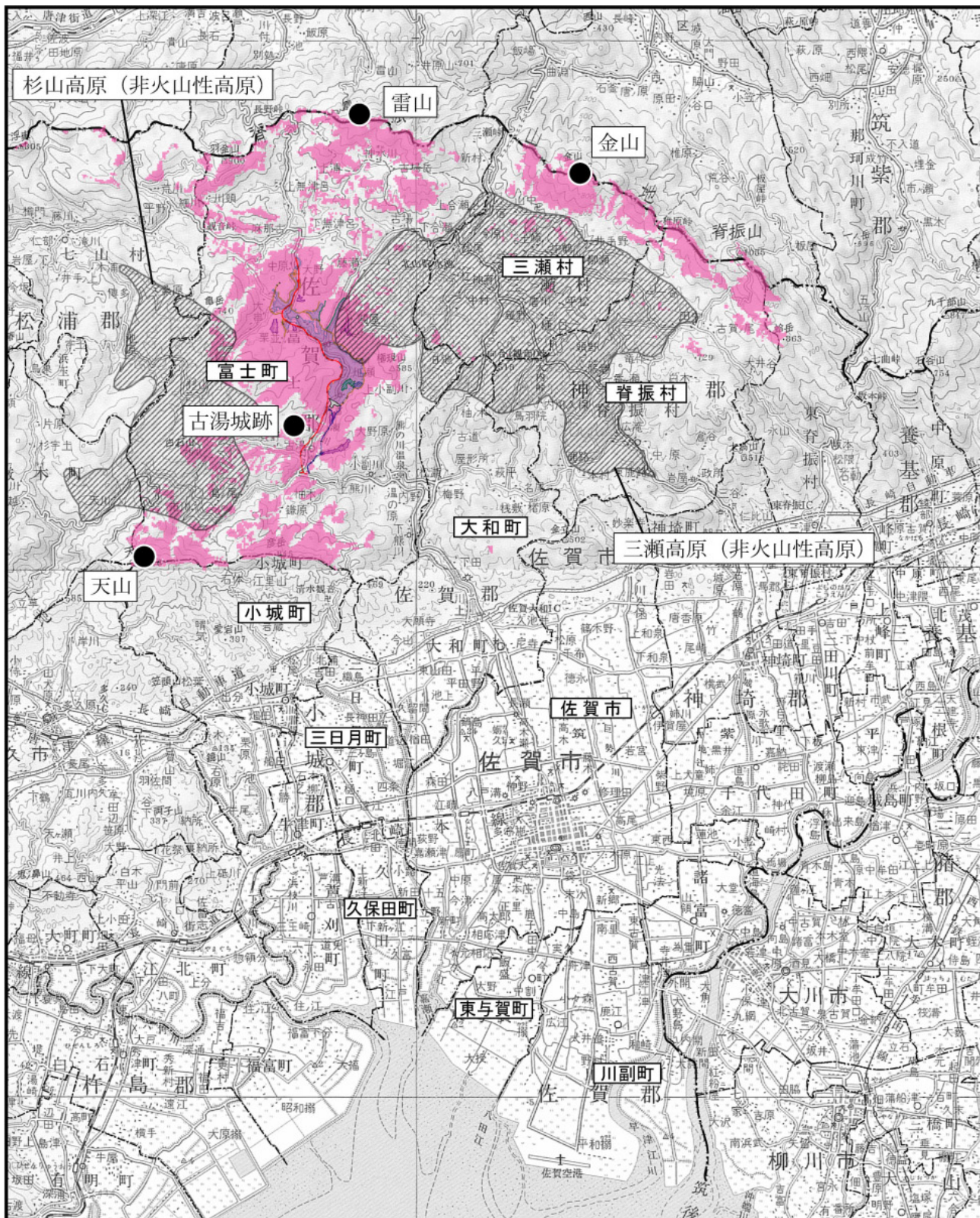
表 3.4.2-2 予測項目及び予測手法

予測項目	予測手法
・ダムの堤体等の存在による主要な眺望点及び景観資源の改変又は消失の程度	・主要な眺望点及び景観資源と事業計画を重ね合わせることで改変又は消失の程度を予測しました。
・ダムの堤体等の存在、ダムの供用による主要な眺望景観の変化	・フォトモンタージュにより眺望景観の変化及び影響要因の視角の程度を予測しました。

・予測地点の考え方

主要な眺望景観の予測地点として、雷山、天山、古湯城跡及び金山を設定しました。また、対象とする景観資源として、三瀬高原(非火山性高原)と杉山高原(非火山性高原)を設定しました。

予測地点を図 3.4.2-3 に示します。なお、図 3.4.2-3 に示す可視領域は、ダム堤体等の影響要因を見ることができる範囲を示します。



- 凡例
- |  |        |  |            |  |                 |
|--|--------|--|------------|--|-----------------|
|  | ダム堤体   |  | 付替国道       |  | トンネル            |
|  | 貯水予定区域 |  | 付替国道(未完成)  |  | 橋               |
|  | 原石山    |  | 付替県道       |  | 市町村界            |
|  | 土捨場    |  | 付替県道(未完成)  |  | 主要な眺望<br>景観調査地点 |
|  | 代替地    |  | 付替町道       |  | 可視領域            |
|  | 施工設備   |  | 付替町道(未完成)  |  |                 |
|  |        |  | 付替林道       |  |                 |
|  |        |  | 付替林道(未完成)  |  |                 |
|  |        |  | 工事用道路      |  |                 |
|  |        |  | 工事用道路(未完成) |  |                 |

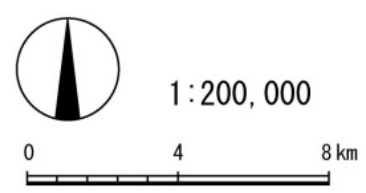


図3.4.2-3 予測地点

(4) 調査手法

予測を行うにあたり必要となる情報を得るための調査の内容を表 3.4.2-3 に示します。

表 3.4.2-3 調査の内容

調査項目	調査手法	調査位置	現地調査期間等
主要な眺望点の分布状況	文献調査、聴取調査	ダム堤体を中心にダム堤体の堤長の100倍を半径とする円内	調査期間:平成14年度 調査時期:平成14年9月6日 調査時間帯: 特に限定しない(文献調査) 昼間(聴取調査)
景観資源の分布状況	文献調査	ダム堤体を中心にダム堤体の堤長の100倍を半径とする円内	調査期間:平成14年度 調査時期:特に限定しない 調査時間帯:特に限定しない
主要な眺望点から景観資源を眺望する場合の眺望景観の状況	写真撮影	雷山	調査期間:平成12年度～14年度 調査時期: 春季 平成13年5月20日(日) 平成14年6月1日(土) 夏季 平成13年8月29日(水) 平成14年9月2日(月) 秋季 平成12年10月27日(金) 平成14年11月18日(月) 冬季 平成13年2月17日(土) 調査時間帯:昼間
		天山	調査期間:平成12年度～14年度 調査時期: 春季 平成13年5月20日(日) 平成14年5月27日(月) 夏季 平成13年8月29日(水) 平成14年9月2日(月) 秋季 平成12年10月27日(金) 平成14年11月9日(土) 冬季 平成13年2月17日(土) 調査時間帯:昼間
		古湯城跡	調査期間:平成14年 調査時期: 春季 平成14年6月1日(土) 夏季 平成14年8月9日(金) 秋季 平成14年11月9日(土) 調査時間帯:昼間
		金山	調査期間:平成14年 調査時期: 夏季 平成14年8月22日(木) 秋季 平成14年11月9日(土) 調査時間帯:昼間

## 2) 調査結果の整理及び影響予測結果の概要

### (1) 雷山

雷山からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 3.4.2-1 に示します。



写真 3.4.2-1(1) 雷山からの眺望景観の状況(現況)



写真 3.4.2-1(2) 雷山からの眺望景観の状況(供用後)

雷山からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 3.4.2-1(3)及び表 3.4.2-4 に示します。



写真 3.4.2-1(3) 雷山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

雷山から三瀬高原及び杉山高原を望むとき、原石山、菖蒲土捨場、栗並土捨場、道路法面 1～3 が眺望できます。

原石山の視角は長辺 0.6 度、短辺 0.3 度であり、菖蒲土捨場の視角は長辺 1.3 度、短辺 0.6 度であり、栗並土捨場の視角は長辺 1.8 度、短辺 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、点状又は線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測されます。また、道路法面 1 の視角は長辺 3.4 度、短辺 0.6 度であり、道路法面 2 の視角は長辺 3.1 度、短辺 0.6 度、道路法面 3 の視角は長辺 3.8 度、短辺 0.5 度であり、フォトモンタージュで示すように、線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測されます。

表 3.4.2-4 雷山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
		長辺	短辺
三瀬高原 杉山高原	原石山	長辺	0.6
		短辺	0.3
	菖蒲土捨場	長辺	1.3
		短辺	0.6
	栗並土捨場	長辺	1.8
		短辺	0.6
	道路法面 1	長辺	3.4
		短辺	0.6
	道路法面 2	長辺	3.1
		短辺	0.6
	道路法面 3	長辺	3.8
		短辺	0.5

(2) 天山

天山からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 3.4.2-2 に示します。



写真 3.4.2-2(1) 天山からの眺望景観の状況(現況)



写真 3.4.2-2(2) 天山からの眺望景観の状況(供用後)



天山からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 3.4.2-2(3)及び表 3.4.2-5 に示します。

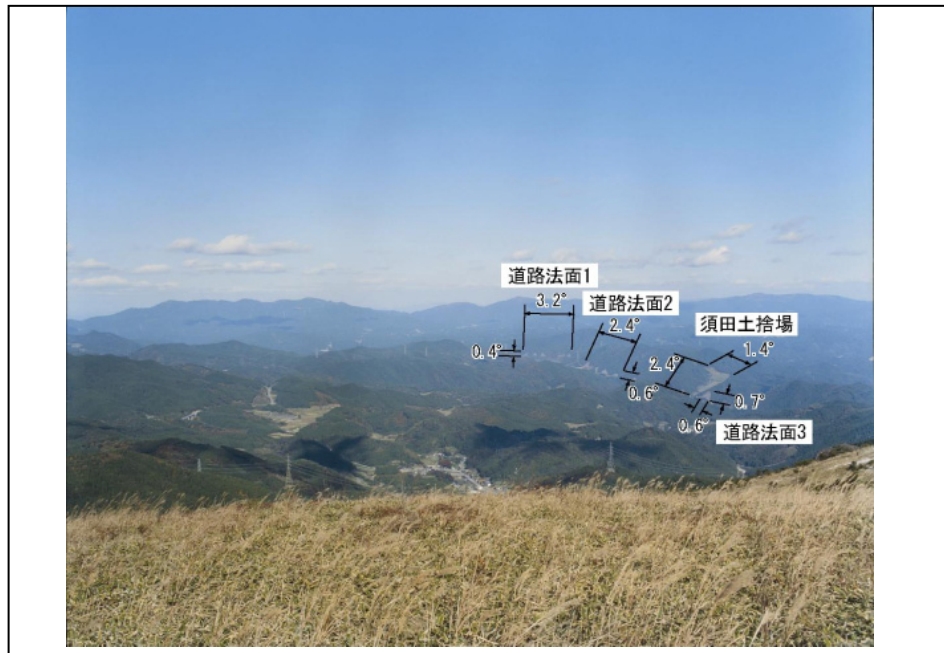


写真 3.4.2-2(3) 天山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

天山から三瀬高原及び杉山高原を望むとき、須田土捨場、道路法面 1～3 が眺望できます。

須田土捨場の視角は長辺 2.4 度、短辺 1.4 度であり、フォトモンタージュで示すように、面的に認識することができ、眺望景観に変化が生ずると予測されます。一方、道路法面 1 の視角は長辺 3.2 度、短辺 0.4 度、道路法面 2 の視角は長辺 2.4 度、短辺 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測されます。また、道路法面 3 の視角は長辺 0.7 度、短辺 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、点状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測されます。

表 3.4.2-5 天山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
		長辺	短辺
三瀬高原 杉山高原	須田土捨場	長辺	2.4
		短辺	1.4
	道路法面 1	長辺	3.2
		短辺	0.4
	道路法面 2	長辺	2.4
		短辺	0.6
	道路法面 3	長辺	0.7
		短辺	0.6

(3) 古湯城跡

古湯城跡からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 3.4.2-3 に示します。



写真 3.4.2-3(1) 古湯城跡からの眺望景観の状況(現況)



写真 3.4.2-3(2) 古湯城跡からの眺望景観の状況(供用後)

古湯城跡からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 3.4.2-3(3)及び表 3.4.2-6 に示します。



写真 3.4.2-3(3) 古湯城跡からの眺望景観における影響要因の視角の程度

古湯城跡から三瀬高原を望むとき、須田土捨場、道路法面 1~2 が眺望できます。須田土捨場の視角の長辺は 1.6 度、短辺は 0.6 度であり、フォトモンタージュで示すように、線状にのみ認識することができ眺望景観の変化は小さいと予測されます。一方、道路法面 1 の視角の長辺は 8.2 度、短辺は 3.2 度であり、道路法面 2 の視角の長辺は 4.0 度、短辺は 2.0 度であり、フォトモンタージュで示すように、面的に認識することができ、眺望景観に変化が生ずると予測されます。

表 3.4.2-6 古湯城跡からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
		長辺	短辺
三瀬高原	須田土捨場	長辺	1.6
		短辺	0.6
	道路法面 1	長辺	8.2
		短辺	3.2
	道路法面 2	長辺	4.0
		短辺	2.0

(4) 金山

金山からの現況及び供用後の眺望景観の状況を写真 3.4.2-4 に示します。



金山から南西方向の眺望景観であり、景観資源である三瀬高原(非火山性高原)を望むことができます。北山ダム湖の湖面の美しさとなだらかな山々の雄大さが調和しており、美しく、やすらぎを与える景観です。

写真 3.4.2-4(1) 金山からの眺望景観の状況(現況)



金山から三瀬高原を望むとき、栗並土捨場、菖蒲土捨場、道路法面が眺望できますが、北山ダム湖の湖面やなだらかな山々を遮ることはありませんので、現況と同様に、美しく、やすらぎを与える景観です。

写真 3.4.2-4(2) 金山からの眺望景観の状況(供用後)

金山からの眺望景観における影響要因の視角の程度を写真 3.4.2-4(3)及び表 3.4.2-7 に示します。



写真 3.4.2-4(3) 金山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

金山から三瀬高原を望むとき、栗並土捨場、菖蒲土捨場、道路法面が眺望できます。

栗並土捨場の視角の長辺は 0.7 度、短辺は 0.2 度であり、道路法面の視角は長辺 0.6 度、短辺 0.2 度であり、菖蒲土捨場の視角の長辺は 0.7 度、短辺は 0.2 度であり、フォトモンタージュで示すように、点状にのみ認識することができ眺望景観の変化は小さいと予測されます。

表 3.4.2-7 金山からの眺望景観における影響要因の視角の程度

景観資源	影響要因	視角(度)	
三瀬高原	栗並土捨場	長辺	0.7
		短辺	0.2
	菖蒲土捨場	長辺	0.7
		短辺	0.2
	道路法面	長辺	0.6
		短辺	0.2

### 3) 環境保全への取り組み

予測の結果、影響があると考えられた主要な眺望景観について、環境保全措置を検討します。

環境保全措置の検討の結果を表 3.4.2-8 に示します。

表 3.4.2-8 環境保全措置の検討結果

項目		環境影響	環境保全措置の方針	環境保全措置	環境保全措置の効果
主要な眺望景観	天山	須田土捨場により眺望景観に変化が生じます。	須田土捨場の跡地を整備し、水田として利用されることを促すことにより、主要な眺望景観(天山)の保全を図ります。	水田利用への整備 ・須田土捨場の跡地を整備し、水田として利用されることを促します。	須田土捨場の跡地を整備し、水田として利用されることを促すことにより、現況と同様の田圃の状況が復元されます。 このことから、主要な眺望景観への影響に対し、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると考えられます。
	古湯城跡	道路法面により眺望景観に変化が生じます。	道路法面の植生を回復することにより、主要な眺望景観(古湯城跡)の保全を図ります。	植生の回復 ・道路法面の植生を回復します。	道路法面の植生を回復することにより、周辺と同様の山地景観が復元されます。 このことから、主要な眺望景観への影響に対し、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると考えられます。



天山から三瀬高原及び杉山高原を望むとき、須田土捨場、道路法面 1~3 が眺望できますが、山々の尾根線に変化をもたらすものではありませんので、現況と変わらず、遠方のなだらかなスカイラインへと繋がり、見通しがよく、気持ちの良い印象を与えます。

写真 3.4.2-5 天山からの眺望景観の状況(環境保全措置実施後)



古湯城跡から東南東方向の眺望景観であり、景観資源である三瀬高原(非火山性高原)を望むことができる。環境保全措置し、植生の回復を図っているため、手前の古湯温泉街と奥の山々が調和しており、やすらぎを与える眺望景観です。

写真 3.4.2-6 古湯城跡からの眺望景観の状況(環境保全措置実施後)